

シラバス参照

開講年度	2011
科目名	コンピュータと経済学
職名／担当教員	経済学部 教授 望月 宏
期間／曜日／時限	通年 水曜日 4時限
開講区分／校舎	一部生田／生田
配 当	E 2 3 , W 2 3 4
単 位	4

講義内容	<p><講義概要> 現代の経済社会の分析には多くの経済データを利用することができるようになり、それとともにこれらを迅速に処理するコンピュータが様々な分野で活用されるようになった。コンピュータシステムの理解と、それを利用した経済分析の手法を学ぶことはますます重要になりつつある。授業はコンピュータシステムの理解、表計算言語の習得に始まり、経済理論（定義、限界概念など）、統計学、数学の理解の上にたった経済分析を行うため、内容が多岐にわたる。具体的には前期はコンピュータシステムの理解に始まり、経済理論のコンピュータシミュレーション、産業連関分析、後期は科学的分析の理解、回帰分析の原理と経済分析への応用を学ぶ。なお、独自掲示板を授業におけるコミュニケーション、情報の収集、発信に積極的に活用する。</p> <p><講義計画></p> <p><前期> コンピュータシステムの歴史と構造 …大型コンピュータとパーソナルコンピュータ …オペレーティングシステム …表計算のソフトウェアの理解 …インターネットの仕組み</p> <p>経済学の定義 …リニアプログラミングを使った限られた資源の有効活用による目的の適正化の理解 基礎的な経済理論のコンピュータシミュレーション …限界概念、双対定理</p> <p>経済数学 …マトリックス演算</p> <p>産業連関分析 …経済的波及効果、レオンチェフの逆行列の理解。基本の13分類モデルを使った日本経済の構造的変化の分析</p> <p><後期> 科学的分析 …分散分析、クロス表分析 …相関関係、相関係数 …因果関係</p> <p>計量経済分析に必要な経済理論、統計、数学の理解 …最小二乗法、正規方程式、微分 …パラメーター検定 表計算言語を使った計量経済分析の実践 簡単なマクロ経済モデリング</p> <p><教科書・参考書> 授業内で指示する。</p>
成績評価方法・基準	全回出席と真摯な授業態度を原則とした上で、毎回の授業のまとめ、論考、および課題をネット上へ提出、小テストの評価、および最後の総合テストにより判定する。
履修上の留意	

点	<受講前提条件・関連科目> コンピュータの操作の授業ではなく、コンピュータを道具として経済学、および経済分析の理解を深めるための授業であることに注意。マクロ、ミクロの経済原論、経済数学、統計学の授業との関連が深い。
担当教員へのアクセス	メールによる (mochizuki@post.harvard.edu)
その他	
更新日付	2011/03/04 18:25